

令和8年度第2回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和8年7月10日（金） 14時～16時17分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して14名が出席しており会議は成立

（委員2名が遅れて参加、最終的に16名が出席）

2 開会あいさつ

（会長）

本日も石巻市総合計画推進会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。前回は数値目標の達成状況のみならず、事業の進め方や、市民への伝わり方、現場で感じられている課題など、本当に多くの発言をいただきました。議論の土台が広がったと感じております。

本日も前回の議論を踏まえまして、数字の裏にある「何が起きているのかという点」と、改善につなげるにはどうすればよいか、そして、前回もお願いしました通り、「石巻らしさ」、「強み」として伸ばしていく点は何かないかという視点でご議論いただければ幸いです。本日も忌憚のないご発言を、この暑さに負けない活発な議論をお願いいたします。

3 議題

（1）第2次石巻市総合計画の令和7年度達成状況について

（資料2、資料3：各担当課）

【第3章 第1節～第3節】

（1班・委員）

第3章第2節の「生きがいを持ち自分らしく暮らせる高齢者福祉の充実」というところの、細節3「高齢者の生活支援を推進する」について達成度がcですが、目標値に対して実績は少なくなっている件について、どう判断したらいいのか、この実績が少ないことは良いことなのか、悪いことなのか、という疑問が班内で多かったので質問したいと思います。

（介護福祉課）

数値が低いことが良いことなのか、悪いことなのかという質問についてですが、もとも目標としたのは平成28年度の1,189件という実績をベースに、各年度の目標を立てておりますが、高齢者在宅福祉サービスを使っていた方が、施設に入所し

たりお亡くなりになった場合等、様々な理由でサービスが使えなくなります。できればもっとたくさんの方に利用していただき、生活の充実を図っていただきたいと考え、こちらから使われてない方々にご案内しているところですが、実際、減少している理由については、サービスによって利用できる介護度が違う等、状況によって異なる部分もあり、一概には言えませんが、利用されていた方の生活様式が変わったことが要因なのかとは考えております。

(会長)

活用率のような配布した枚数とそのうち何%が活用されたのか、という数字がわかると、実績値の意味がまた違って見えてくるのではないかと思いますので、今後活かしていただければと思います。

(1班・委員)

そういうことであれば、状況に応じた評価としてcでなくてもいいのではないかと、という意見になります。

(介護福祉課)

5年間の目標に対する実績になりますので、何とか目標まで近づけたいと考えております。

(2班・委員)

3章1節「安心して妊娠・出産・子育てができる環境の充実」についてお尋ねします。妊娠・出産・子育てができる環境ということに絡めての話になりますが、出産費用はかなり高額になるかと思います。その出産費用に対する市の補助というのは、どれぐらい出ているのかということと、ご存じのように石巻市内の産婦人科及び小児科も含めて、非常に少ない状況になっている件について、出産後の子育て面で利用するための小児科の新設など、市立病院に小児科を新設する件も含めて、市の方でどのように考えているのか、お聞かせいただければと思います。

(健康推進課)

まず産婦人科についてですが、現在、お産を行っている市内の病院は石巻赤十字病院とあべクリニックの2か所となっております。ただ、セミオープンシステムという他の婦人科に出産直前のある程度の時期まで検診を受けて、お産のときだけ2か所の病院で行うという形をとっており、少子化の面からも産婦人科が不足しているという現状は、今のところないと考えております。

小児科につきましても、減ってきている現状ではありますが、内科の方で小児も受診可能という病院もありますので、そちらの方で対応している状況となっております。

(会長)

出産助成については、どのようなになっていますか。

(健康推進課)

出産の費用につきましては、国の所管として助成しております。それほど多くの手

出しはないと伺っておりますが、正確な数字はわかりません。

(会長)

分娩について、市独自の助成をしているわけではないということですね。

(健康推進課)

分娩費の助成はありませんが、産婦検診の助成はしております。

(3班・委員)

同じく第3章の1節に関してになりますが、取組と成果を見てみると、どこの市区町村でもやっている内容だと感じました。石巻市独自で行っているサービスがあるのか、あるいは他の市区町村と比べるとこのサービスがすごい、みたいなものがあれば、教えていただければと思いました。

(子育て支援課)

ここがすごいという部分につきまして、「産前産後プランの作成」については、他の自治体では行っていない部分があると思います。核家族化によって出産に対する不安等を抱えていても、細かいことを聞けないという方に対し、1対1で相談に応じ、出産をゴールとすると「いつの時期に何を行うのか」という具体的なプランニングを行い、出産後も、どこでどのような手続きを行うのか、産後鬱などに陥っていないかなど、電話でやりとりを行う、きめ細やかな伴走型支援を実施しております。

2人目以降の出産になる経産婦や、家族の助けがある方についても、自分でプランニングができるよう支援員と一緒にプランシートを作成するという支援体制は、石巻市独自のものと考えております。

(4班・委員)

第3章第3節の「共に安心して暮らせる障害福祉の充実」についてお伺いしたいことがあります。少し前に、大阪の障害者支援事業所で不正があったという事件がありました。事業者が適切に支援事業を行っているかどうか、監査活動等を石巻市では適切に行われているのかについてと、もう1つお伺いしたいことは、介護職の方の待遇について、今後も大事な部分になってくるころだと思っておりますが、その待遇改善についてどのように進んでいるのか、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

(障害福祉課)

1点目の適切に監査しているのかという点についてですが、サービス事業者に対しての指導等につきましては指定権者が県ということもあり、県の方で監査に入っているところになります。市の方でもサービスの決定等に関して、適正に行っているかどうか、県と一緒に監査に入ることはできますが、正直に言いますとこれまであまり行っていなかった部分でもあります。今年度からは、県と一緒に実地指導に同行しまして、学びながら適正な事務指導を行っていく予定となっております。

それから待遇の部分につきましては、今年度8月から報酬が改定される予定となっており、少し報酬の方が増える見込みとなっております。こちらも法定で決まっている報酬額となっておりますので、市の方で決めることはなかなか難しいところです。

が、少しずつ改善していくような形になっていければいいと思っております。

【第3章 第4節～第5節】

(2班・委員)

「各種がん検診受診率」について、令和7年度の目標が17.3%であり、実績値が15.6%となっていますが、これはあくまで市が各世帯にがん検診の受診を要請した数字であり、その後がん検診を市の病院等で受けた数字であっていますか。

(健康推進課)

まずがん検診というのは、市民の皆様に申し込んでいただくものになっており、市のがん検診を受けると答えていただいた方に、市の方から受診票等を送付いたします。それを使って受診された人の数から取った数値及び率となっています。

(2班・委員)

ちなみに17.3%の目標値はどのように出していますか。

(健康推進課)

こちらに関しては、令和元年度の基準値が15.1%となっており、そこから毎年度0.2から0.3%ずつ上がっていく形で最終年度である令和7年度の目標値といたしました。

(2班・委員)

各世帯には会社で健康診断を受けている人も多く、当然、がん検診も会社の健康診断で受けているということだと思いますが、その数は全くカウントせず、あくまで市からの要請の範囲の数字ということなので、もし会社の健康診断を受けている数も含めることができれば、もっと高い数字に上がることは承知でということでしょうか。

(健康推進課)

この件に関しましては、現状、市が実施する検診だけになっております。そうではなく、多くの市民の方は職域検診や人間ドック等を受けておりますので、そちらの状況も把握できる新たな仕組みをつくらなければならない、ということは国・県の方でも把握しており、石巻市に限らずどこの市町村も同じような状況になっているものがあります。

(3班・委員)

令和3年度の16.2%という数字について、対象者の中には、企業の健康診断を受ける人も入っている数字なのか、何を分母にして何が分子になっているのか教えていただければ。

(健康推進課)

分母は健康診断の対象者全員であり、例えばがん検診であれば40歳以上の方全員が分母になります。分子は市の健康診断を受けた方になります。

(3班・委員)

実態から言えば、企業の健康診断を受けている人の数が分子に入らなければ、本当

の実態はわからないということになりますね、わかりました。

(4班・委員)

1つ目は「休日当番医実施率」について、ずっと100%になっていますが、もう少し目標としていいのかどうか、というところが非常に疑問であるという意見が出ました。

2つ目は福祉方面ということで、第3章の「共に支え合い誰もが生きがいを持ち自分らしく健康に暮らせるまち」について、福祉に携わる身としまして、問題を解決すればそれで終わりという現状が多く、共に支え合うことが実際にできているのか、甚だ疑問に思っております。実際、各地域ではいわゆる「向こう3軒両隣の顔の突き合わせ方」という文化がなくなってしまった中、地域の担い手不足の問題もありますし、みんな支え合うことがなかなかできなくなっています。やはり一人一人が実際にやらなければ、私は支え合うことはできないと思いますが、その辺の市の取組方や意気込みについてお聞かせください。

(健康推進課)

休日当番医の目標値についてですが、休日における実施率100%を目標に掲げ、医師会の協力のもとで100%を実現しておりますが、市民の皆様にとっても休日当番医がある方が安全安心だということで、今後も実施率100%は実現していきたいと思っております。

(保健福祉総務課)

共に支え合うという部分について、市では様々な事業を行っておりますが自助・互助・共助・公助の4つの階層のバランスは当然大事なものであり、市では互助活動の促進を含めた様々な取組を実施しておりますが、少子高齢化に伴う担い手不足等、様々な要因が複合的に重なることで、共に支え合うという意識が全体的に薄れてきている現状は残念ながら今に始まったことではなく、もしかしたらこれからは少しずつ悪化する可能性もあります。このような部分に、市の事業をもって様々な角度からアプローチすることで、何とかKGIにあります「地域で支え合いが行われていると感じる市民の割合」を向上させていきたいと思っています。

(1班・委員)

「奨学金返還支援事業助成人数」について、令和7年度の46件という目標に対し、実績値が21件ということで、市の考え方として医療福祉系の人材を確保するという目的のため、その方々を対象としていることは理解できるのですが、現在の人手不足の問題から、他の業種でも人が足りないという問題が考えられます。こうした中で、業種の拡大や奨学金の額を満額のところを80%にすることで、石巻市で働きたいUIJターンを希望する人にも対応する等の点を、石巻市の売りとして出したらいいのではと思いましたが、その辺について意見をお聞かせ頂きたいと思います。

(保健福祉総務課)

当課で行っております奨学金返還事業について、医療介護系の人材確保と定住とい

う、二つの面に対する助成事業を行っております。ご意見の中でもありましたとおり、少子高齢化や都市部への人材の偏在等、様々な要因によって人材が乏しくなっていく状況の中、働き先も同じように減っていくという未来が、今の少子高齢化の将来的な見立てなのではないかと考えております。いずれにしましても、介護、医療を必要とする方々に、適切な医療提供及び介護サービスを提供できる体制を、人口に左右されず、きちんとカバーしていくという観点は重要であると思っております。

今後この事業については、毎年度内容を確認しながら進めつつ、返還金額の2分の1、上限を10万円という事業内容で進めてきておりますが、申請者の中には10万円を下回るような返還額の方もいることから、本当に10万円が妥当なのかどうかという点については、より多くの人材を確保する手だてとして、実情をきちんと捉えてながら検討してまいりたいと思います。

(会長)

業種の拡大については、検討されていないということでしょうか。

(企画部次長)

奨学金に関連して企画部の方からお答えしたいと思います。第1章第2節に関する取組の中で、「定住促進奨学金返還支援事業」を実施しており、令和7年度は46人の利用実績がありました。市では様々な目的の中、複数の奨学金行っており、こちらの奨学金では定住促進を目的として、よそから石巻市に来ていただくための奨学金として実施しております。人手不足という視点からいうと、ご指摘のとおり、現状の奨学金返還支援事業だけでは足りないという視点は、今後の課題として認識しております。

【第4章 第1節～第3節】

(4班・委員)

はじめに石巻マンガロードの整備について、一生懸命、市で取り組んでいただいております。ぜひ継続的に頑張ってもらいたいというお願いになります。

去年も質問に出ていた件になりますが、「新規水産業就業者数」について、これはとても大切なところだと思っています。ただ、こちらに就業者数は出ておりますが、離職者数がわからないので、この1年間の増減等が分かれば教えていただきたいと思います。

もう1点、「水産物輸出額」についてですが、水産物の消費拡大のため、海外に販路を求めることを継続して取り組んでいただき、大変ありがたいと感じています。ただ、令和7年度実績として目標値は達成しているものの、傾向として減少傾向にありますので、円安のこの時期であればむしろ増やしていくべきであり、やはり輸出産業で稼ぐということは、鉱工業製品だけではなく、農水製品でも石巻市として稼いでいく必要があると思っております。そういう意味でいうと、この減少傾向の理由について教えていただければと思います。

また、他地域といろいろ交流している中で山形県の米沢市がありますが、こちらで

は台湾 1 本に絞って営業をかけています。ぜひ来てください、米沢市の酒を買ってください、というように 1 本に絞って行っています。石巻市の場合はずっと同じ場所に営業をかけているのか、あるいは場所を変えているのか、というところも踏まえて、その辺の戦略をどう考えているのか教えていただきたいと思います。

(水産課)

1 つ目の離職者数についてですが、平成 28 年度からこの事業しており、就業者として定着している数は 65 名となっております。漁業権獲得することはなかなか厳しい道のりにはなりますが、この 65 名のうち、6 名が漁協の組合資格を取得し定着しているという状況です。離職者数の件については、後ほどお示ししたいと思います。

2 つ目の輸出額についてですが、令和 6 年度から令和 7 年度の実績が減っている要因として、ホタテ、カキの輸出も含まれており、養殖水産物が去年、おとしと駄目になってしまったことが大きな要因となっております。

3 つ目の輸出の対象地域についてですが、同じ地域をベースとしつつも、ほかの地域も開拓することとし、アメリカ内でも別都市まで拡大するように市場調査と並行しながら、事業者の売り込みを行っているという状況です。

(3 班・委員)

「ブランド認証シール活用事業所数」について、現在、金華さば等かなり不漁になっていると思うのですが、石巻市として代表するブランド認証できるような魚種を増やしていかなければならないと思いますが、その辺はどうお考えでしょうか。

(水産課)

魚種でいいますと全国の市町村の中で 1 位の水揚げを誇るものも多々あります。このような魚種から拡大していくということも一つの選択肢として考えなければいけないところですが、ブランド化の判断基準について、どのように選定していくのかを決めるブランド化推進委員会というものが、魚市場を中心にありますので、そちらと魚種の拡大について検討していく必要があると思っております。

(3 班・委員)

引き続きお願いしたいこととして、ブランド化は自然物、農産物ともに安定供給を行うことが難しいものだと思っております。倫理観を持たずに拡大してしまうと、ブランドそのものの品質が落ちる可能性があります。この倫理感を生産者側に持たせるような施策は行政にしかできませんので、このような自然のものに対する指導については、徹底的に行う覚悟を持って、取り組んでいただければという要望になります。よろしくお願いします。

(1 班・委員)

商工業のところで、かわまちエリアの利用者数がどんどん増加している件について、これはすごいことであり、官民両方で頑張っている成果が出ているという意見が班内で出ました。

あと質問として、「漁港の保全工事」についてですが、復興事業として整備が

進んだ部分もあるかと思いますが、人口が少しずつ減ってきている中で、全てを維持していくことがなかなか難しいとなった際に、今後どのような形で工事を実施していくのか、ある程度取捨選択も必要ではないかという意見が出ましたが、このあたりについてはいかがでしょうか。

(水産課)

石巻市には漁港が44箇所あり、そのうち34箇所の漁港が市の管理となっております。市管理の漁港について、漁港の設備ごとに、A B C Dという老朽化度合いを表す判定をつけており、その中でも漁港の利用度合い、及び所属する船の数、組合員数、漁港の劣化具合等を加味して優先順位をつけさせていただき、国庫補助を受けられる範囲の中で工事を行うこととして、毎年、漁業活動に影響のないように気をつけて実施しております。

(2班・委員)

「持続可能な漁業・水産加工業の振興」ということで、現在、石巻市の水産業界だけでなく、建設・土建業、飲食業もそうですが、非常に厳しい時代を迎えていると思います。このような中で、ここで内部評価がAとなっておりますが、ここでの評価が非常に市民感覚と乖離しているのではないかと、私であればCでもいいのではないかなと思うところですが、先日も捕鯨業者の倒産があり、今後も非常に厳しい状況は続いていくと思いますが、このような評価になった理由について、教えていただければと思います。

(水産課)

こちらの評価については、水揚げや原料確保という部分が指標に入っておりませんので、それぞれの取組について評価を行っております。ただ、水揚げが減少している中、加工業及び飲食業の方々が大変苦勞されている状況についても、重々感じておりますので、それらを何とか解消できるような取組を、今後も検討して実施していかなければならないと思っております。

(会長)

おそらくここに掲げられている指標の達成度の積み上げによって内部評価が行われており、この節の達成度からいうと、内部評価はAになると思います。ですが、現場感でいうと苦しいと思う部分が、多分指標として目標値に設定されていないので、今回の評価はどうしても内部評価はA評価になってしまうというのが現状です。俯瞰的に見ると実際はそうではない、という部分についてはぜひ委員評価表のところに記入していただき、逆にどのような評価・視点を盛り込んでいけば、現場感に近い評価につながるのかをお示ししていただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

(2班・委員)

例えばC評価となっている分野について、これから何か前向きにやろうという姿勢などはないのでしょうか。そのままC評価でよろしいのでしょうか。

(会長)

C評価になってしまうところは、各指標が設定された目標に達成されていないので、その目標値のままで問題がなければ、達成できるように努力をしなければならない、ということだと思います。しかし、目標値自体が見合っていない場合は評価がぶれることにつながりますので、目標値自体を見直さなければいけない部分もあります。今回の推進会議では、目標値自体の議論をするわけではないので、その辺りの意見は委員評価表の中にぜひ入れていただければと思います。

【第4章 第4節～第6節】

(4班・委員)

第4章第4節の「観光政策課SNSフォロワー数」の増加率や「宿泊観光客数」を見ても、関心度が高い分野だと思いますので、今後とも、このフォロワー数や宿泊観光客数について、もっと上の目標を掲げてほしいなと感じております。

その他、感想のような形になってしまいましたが、第4章第5節にて「創業開成塾」の受講者が減少傾向にあると課題にありました。創業に至らない方もたくさんいる中で、まちなかの様子を見てみると、創業3年以下のお店だけではなく、老舗店舗も含めて事業継続が本当に厳しいという声がたくさん聞きこえてきます。「創業者持続化事業費補助金」については既に制度として決まっていることとは思いますが、創業から3年以上経過した事業者だけではなく、たとえ創業から3年経過していなくても、事業継続が難しい理由というのは何かしらあるかと思うので、相談を受入れてもらえるような、事業支援みたいな形について、もう少し力入れて行っていただけるとうれしいなと思います。

(観光政策課)

宿泊観光客数につきまして、令和3年度から目標値はコロナ禍前の数値を設定しておりましたが、近年は増加傾向になっております。今後も、宿泊観光客数は増やしていかなければならないと感じておりますので、この目標値については高く設定していきたいと思っております。

それから、SNSの発信につきましても、例年の1割程度増やす数値で目標を設定しておりましたが、インスタグラムの実績につきまして、令和7年度にキャンペーン等を実施した結果、9,569件ということで、270%程度増えたという効果がありました。今後も、情報発信といった部分でSNSは大きな鍵にはなってくるコンテンツかと思っておりますので、世界中に広がっていけるような仕組みづくりをしていきたいと考えております。

(産業推進課)

続きまして創業の件につきまして、現在開成塾は5月から6月に開催するほか、その期間に受けられない方が参加できるよう時期を10月から11月というように、期間を2パターンに分けて開催するなどの対応をとっております。そのほか、東松島市

でも同一の証明書を発行することによって、補助金等の対応できるような形をとっております。

また、創業3年以上に関する支援につきましては、創業初期の補助金については市からの補助ということもあり、整備費も含め補助として対象になる部分が大きくなっておりますが、過去5年間の統計をとってみると、創業から3年を迎えた後の目標収入が20%ぐらいしか到達してないという状況がわかり、目標としていた金額に達してない事業者の状況から、令和7年度に国の財源を活用しながら、持続化補助金を新たに創設して、創業後のフォローアップをとるという仕組みになっております。今後とも申込件数等を踏まえながら、国の制度を活用して対応していきたいと思っております。

(1班・委員)

企業立地の関係で1点、須江の工業団地が全部埋まった件については、本当に喜ばしいことだと思っておりますが、工業港の背後地や湊地区では残っている部分がありますので、業態に合わせた形で企業誘致を進めていただきたいと思います。工業港の背後地については、港を活用した企業立地として倉庫や物流関係等、そのような形企業誘致を進めていただければと思います。

人材の確保と育成の関係で1点、合同企業説明会の参加者数について、目標人数350人に対して実績が478人ということで、達成度的にはプラスになっておりますが、内訳について、高校生及び一般の方がどれくらい参加したのかお聞きしたいと思います。また、最近であれば民間の求人サイトを利用している部分が多いと思いますが、民間の求人サイトの利用も含めて検討していただければと思います。

(産業推進課)

企業立地につきましては目標件数に届いてないというところですが、物価高騰、それから今後の先行き不透明等が要因として考えられますが、これを受けまして令和8年度から条例を改正し、小売業が石巻市の中でも利用が少し伸びているという現状を踏まえまして、指定業種の中に小売業を追加したほか、娯楽業を業種に追加し、さらなる企業立地に努めてまいりたいと思っております。また、市有地のほかに、民有地が隣接している場合もありますので、民有地の補助金についても、今回新しく造成費の10%を加えるなど、市有地と民有地を一緒に有効活用できるような企業誘致を図ってまいりたいと思っております。

(商工課)

求人状況雇用対策についてですが、合同企業説明会参加者の内訳につきまして、高校生の参加者数が230名、一般高齢者の参加者数が248名、合わせて478名となっております。また、民間の求人サイトの活用につきまして、今後活用方法につきまして研究し、就職雇用対策を検討していきたいと考えております。

(2班・委員)

全体を通した意見になりますが、石巻市総合計画前期の基本計画については令和7

年度が最終年度ということで、我々が現在評価しているものも前年度の評価を行っているわけですが、昨年度までは計画期間内の話し合いということで、再来年度にこの意見が反映されたり、計画年度の途中でK P Iの見直しも行われるという視点で会議に参加してきましたが、既に新しい後期の基本計画が進んでいる中、K P Iの見直し等の議論を今回の会議で行うことは、大変失礼かもしれませんが無意味な会議のように感じているのは私だけなのかなと思いました。今回の会議の位置づけについて、来年度以降にどのように反映されるのか、教えていただければと思います。

(政策企画課)

総合計画前期の基本計画は令和7年度で終了となります。令和8年度から後期の基本計画が既に始まっている状況になりますが、総合計画全体の階層でいうと、まず、基本構想というのが1番上にあり、これは10年間の構想として、いわゆる政策的なものになります。そして、構想の下にあるのが基本計画となり、こちらが施策的なものになります。さらにその下に、実施計画というのがあり、こちらは毎年度策定をすることで結果的に、市の予算にもつながる形になります。今回頂いたご意見は実施計画の策定部分に反映することとし、具体的な事業展開については、いただいたご意見も踏まえながら翌年度以降、PDCAを回しながら展開をしていく形になります。

また、K P I・K G Iについては、基本計画に位置づけられておりますが、令和8年度からの後期の基本計画において、新たに設定を行い、進捗状況に合わせて見直しを図っていくという部分は、今後も継続していきますので、今回のご意見も後期の基本計画に反映させていく方向で計画の推進を図ってまいりたいと考えております。

(会長)

この推進会議の位置づけになりますが、前年度やってきた事業の市担当課による内部評価に対し、推進会議委員として適切かどうか外部評価を行うことが1番の目的となっています。令和7年度の目標値に対して、どれくらい達成できたのかを、外部委員として評価をしなければいけないことは、やらなくてはいけないことであり、無駄ではないと思います。

内部評価に対する外部委員の評価だけではなく、委員の皆さんがK P I・K G Iに対して達成できていない等、思うところがあれば、委員評価表に書いていただくという形になっています。外部委員の意見がその後、何に反映されているのか、この部分が少しブラックボックスになっているとは思いますので、意見を出しても意味があるのかな、と委員の皆さんが思われる部分は当然あるかと思います。例えば、一部でも、どんな形でもいいので、何かの事業に反映された等の部分を次回以降、どこかの場面でお示しいただけたら、我々委員としても、意見を出す意味があるのかなと思いますので、ぜひご検討ください。

(企画部次長)

今のご意見に関しまして補足をさせていただきます。今回、令和7年度の結果、成果に対するご意見をいただいておりますが、最終的には、令和7年度の最終評価も含

めた前期の基本計画5年間のまとめも必要になると考えております。まとめの報告をした上で、新たに後期の基本計画に関する説明を行う必要があると考えており、今年度中に対応をする方向で準備を進めておりましたので、よろしくお願いします。

(3班・委員)

第4章4節の観光分野に関してですが、人口減少が進む中、交流人口を増やすというのは地方が生き残る中で大事なキーワードになると思っております。交流人口を増やすにはPRが非常に大事であり、そのような意味では、インスタグラムのフォロワー数がこれだけ増えたというのは非常に良いことであると思っておりますが、今後も継続していくことも非常に重要であり、人と物とお金をしっかり配分し、次年度以降も、PRできる体制を整えてほしいという感想になります。

(観光政策課)

最近ではInstagramが利用されている頻度が高いコンテンツとなっておりますが、今後も世界に向けて石巻市を知っていただく発信を続けることが大事であり、その手段としてSNSでの発信は効果的であると考えております。Instagramについては、昨年同様キャンペーン等を実施しておりますが、引き続きフォロワー数向上を目指し、石巻市を知っていただくことで、観光客数を増やすことはもちろん、交流人口の増加や二地域居住の促進等につなげていければと思っております。

4 その他

政策企画課より、「委員評価表の提出について」説明。

5 閉会あいさつ

(副会長)

本日も活発なご意見をいただきました。まだまだ意見を出し切れていない委員の方々もたくさんおられると思いますが、今、事務局から説明がありましたように、この委員評価表の中に書いていただいて、できれば、今後に生きるような意見も含めて書いていただければと思います。本日はありがとうございました。

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	出席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	出席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	欠席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	欠席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	欠席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	加納 美雄	いしのまき農業協同組合	欠席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	欠席
14	佐藤 尚美	みらいパートナーズ・きたかみ (前北上地域まちづくり委員)	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	齋藤 光	河南地域まちづくり委員会	出席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	欠席
21	花岡 徹	石巻金融団	出席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会（前会長）	出席
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	畑山 作栄	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	代理出席
2	小野谷 聡	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鐺木 祐人	総務部総務課 法制企画官	欠席